

114
A 2364



オーストリア 第六十二號

十二月十三日發令

大正十一年四月
陸侯爵郵寄贈



局設立ノ為メ施行スル所ノ條例
茲ニ上下兩議院ノ決議ヲ得テ之ヲ布告ス

第一條

大藏卿ハ此條例ニ依テオーストリアノ銀貨八千万ヲ

ロリンズ(大凡ソ三十六百万圓)ヲ超過セザル公債ヲ起スカ若シク

ハ「エキチエカレント、オブリゲーシヨシ」彼國一種ノ公債方法ニシテ即チ歲入等ヲ擔當ニシテ公債證書ノ類ヲ發行シ元金ヲ償還セスシテ利子ノミニヲ拂戻スモノヲ云フノ方法ヲ以テ須要ノ金高ヲ發行スルノ

權カヲ附与セラル而メ此公債ノ施行ニ付テハ可成文ヲ費用ヲ

減省シテ政府ノ信任行ハル、様注意スベシ

銀貨ニテ領収シタル金高ハオーストリアノ國立銀行ニ預ケ置クベシ而

大藏卿ハ此金高ニ適當ナル銀行紙幣ヲ受取り之ヲ左ノ目的ニ向

ツテ殘餘ノ公債(銀貨ニテ受取タル)ト共ニ其遣拂ヲ為スベシ

114
A 2364



澳斯利亞百六十二號

十二月十三日發令

信任ニ因テ鉄道建築ニ於ケル金ヲ募ラシメ及ビ國債
局設立ノ為メ施行スル所ノ條例

茲ニ上下兩議院ノ協議ヲ得テ之ヲ布告ス

第一條

大藏卿ハ此條例ニ依テ澳斯利亞ノ銀貨八千万ヲ

ロリンズ(大凡ソ三十六百万圓)ヲ超過セザル公債ヲ起スカ若シク

ハ「エキキエカレント、オブリゲーション」彼國一種ノ公債方法ニシテ即チ歲

行シ元金ヲ償還セシメテ利入等ヲ收當ニシテ公債證書ノ類ヲ發

子ノミヲ掛戻スモノヲ云フ)ノ方法ヲ以テ須要ノ金高ヲ發行スルノ

權カヲ附与セラルル而シテ公債ノ施行ニ付テハ可成ク費用ヲ

大藏卿ハ此金高ニ當リテ發行スル公債ノ利息ハ其額ノ半ニシテ

ハ前出公債施行ノ方法都合好ク其功ヲ奏セザルト者認

ムルハ別ニ「フローチンゲン」テット員債ヲ起ス一種ノ方法ニシテ

證書ヲ發行セシメ一時ノ操

大正十一年四月



替金ヲ考サシムル等凡ソ公債ノ方法ニ依テ須要ノ金高ヲ募
ノ俸裁全備セザルモノヲ云フ
ツテ可ナリ是レハ一旦政府ニ借入レタル金ヲ以テ人民ニ貸付ケ
人民ヨリ返納スル割合ニ從テ漸次償却スルモノトス

第二條

前所公債ノ一部分ハ鐵道建築ヲ助ケル為メニ之ヲ
遣拂フヲ要ス○此金額ハ特別條例ヲ以テ之ヲ取極メ
且ツ既ニイストリヤ及ヒ「フアー」ノレリエーナヨンノ鐵道ニ遣拂
フタル金高モ此中ニ算入スベシ

第三條

凡ソ時際ノ急迫避クベカラザル間及各地高法並職
業等ノ要求ニ因リ貸付ケ并至替其他諸手形ノ割引方
法ヲ施行スルニ緊要ナル場所ニ於テ國債局ヲ設立スベシ

第四條

第一項 凡ソ割引ノ目的ニ向ツテ受取ルベキモノハ只諸手形
ノ通用貨幣ヲ以テ之ヲ拂フベク且ツ六ヶ月以内ノ期限ニシ

テ二日ノ印章(貸主并保証人
兩名ノ印章ヲ云フ)アルモノニ限ルベシ

第二項

たノ質物アルニ於テハ右ノ手形ヲ受取ルヲ得ベ
シ

甲

以條ノ第一項ニ揭示シタル條款ニ適中スル諸手形ニ
シテ且ツ國債局ニ於テ通例慣用ノ交換方法ニ從フ
テ輒スク處分スルヲ得ベキモノ及ヒ此手形ニ付テ
同局ノ保證ヲ要セザルモノタルベシ

乙

商賣品、穀物、鑛物製造品等ノ毀損破壊ニ屬セザル
モノ、質物ニ於テ○此貸附金ハ其價ノ半額ヲ過クベカ
ラス

丙

國債証書又ハ諸株式ノ法律上ニ於テ「ウァー」ツスモノ
(父母死去シテ其家産ヲ讓受クベキ子孫尙不知權ニシテ之ヲ支
配スルヲ能ハザルハ政府自カラ其後見人トナリ其家産ヲ賣
却等ニ付其代金ヲ以テ確實ナル債券株式)ノ元入トスルニ堪
等ヲ買取リ以テ其者ノ元入ト為ス金額ヲ云フ)

へタル確實ノモノニ於テ○但シ是等証券書株式等ノ
質物ニ於ケル貸附金高ハ其市價三分ノ一タルベシ
○右ノ外都テ株式ノ質物ハ維也納ニ於ケル國債本
局ニ限リ大蔵卿ノ承諾ヲ得テ特別ニ之ヲ受取ルコトヲ
得ベシ而メ前ニ掲ケタル國債証券書同様ノ直引タルコト
勿論タルベシ○若シ証券書株式等ノ持主ハ其拂金ヲ
為サザルハ式ニ從フテ其証券書等一受取リ主ノ姓名ヲ
表書セシカ又ハ之ヲ國債局ニ送致スベシ是証券書ノ書
替ニ供スルモノナルベシ
丁 質入書入ノ規則ニ遵ヒシ當帝國ニ在ル所ノ不動産
ノ質物ニ於テ○但シ休業シタル諸職業ノ建物ハ之
ヲ除クベシ

戊 質物ヲ差出シ又ハ差出サザル人ヲ証人ニ立テタルモノニ
對シテ

丁戊ノ條ニ揭示セル抵當物ハ國債本局ニ限リ大蔵卿ノ
承諾ヲ得且ツ特別ノ事情之レアルハ之ヲ許可スルコトヲ
得ベシ

各所ノ國債支局ニ發施スル所ノ諸命令ハ通常又ハ細
密ノ手續ヲ以テ如何ナル事情ニ於テ其支局ハ伺ヲ經スレテ
手形ヲ割引シ又ハ貸金ヲ發行シ然ルベキヤヲ指定スベシ
國債局ハ手形又ハ貸附ヲ拒ムコトニ付テ其事由ヲ辨解
スルニハ及バザルベシ

第五條 凡ソ貸附ハ都テ三ヶ月ヲ以テ定則トス而メ其之ヲ
六ヶ月トスルハ特別ノ事タルベシ○延期ハ之ヲ許スト雖モ須カ
ラク一ヶ月ヲ過クベカラズ

第六條 割引ノ為メナル手形ヲ受取ルハ又ハ貸附ヲ發行
スルハ利子ノ割合ヲ取極ムベシ延期スルハ之レガ増

加ノ責ニ任スベシ但シ如何ナル場合ニテモ隕斯利亞國立
銀行ノ割合ヨリ百^分二以下^上タルヘシ

第七條 凡ソ質物ハ元金利子及ヒ手数料ノ抵當トシテ差
出シタルモノナルベシ利子ハ貸渡シヨリ時前以テ之レヲ差引ク
コアルベシ

第八條 國債局ノ簿冊ハ諸取扱事務ノ書留并右簿冊
ヨリ拔萃シテ保証シタル書類ハ諸公文同様法律上ノ効績ヲ
有ツモノトス

第九條 若シ返納定リタル期日ニ於テ其拂方ヲ為サズルハ國
債局ハ其代理人ノ一人ヲ以テ又ハスウオールニブロウカ<sup>（誓約
シタル
仲買人ノ義）</sup>ノ手ニ依テ質物ヲ賣拂ヒ其代價ヲ以テ之ヲ仕拂フ
マルベシ○國債局ニ於テ右ノ質物ヲ買上クルニハ之ヲ質流シ
ニ致シ其儘之ヲ受領スルコトヲ得ス唯之ヲ公賣ニ甘シ他

ノ評價ヨリ一層高價ヲ評スルハ限ルベシ○國債局ハ猶又
千八百六十五年十月廿八日附國務卿兼司法卿ノ達第
三第^四條ニ照準シ質入書入物ノ<sup>（要一件ニ於ケル特別
ノ義）</sup>並普通ノ特權ヲ使用スルコトヲ得ルモノトス（ロー、ガゼット）

第十條 若シ負債主破産人トナルハ國債局ハ自餘ニ均
ハラスシテ第九條ニ明示セル方法ニ於テ其質物ヲ賣拂
フコトヲ許典マレタルモノトスヘシ

第十一條 惣取締ノ為メ且ツ獨立シテ其事務ヲ取扱フ為メ
國債本局ヲ維也納ニ設置シ更ラニ隕斯利亞帝國ノ上下
議院ハ各代人ヲ差出シタル各地方^{（殘ラズヲ推及スベシ）}

第十二條 國債局ノ施設事務ハ都ラ政府ノ費用ヲ以テ之ヲ
行フモノナリ○維也納ノ本局（第十一條）ハ大藏卿ノ直管

ニ屬シ而メ信任ノ人員ト云フハ義ニシテ其ノ同卿ノ信任ニ
タル。ボルソン、オフ、コン、フ、サ、テ、ン、ス、信任ノ人員ト云フハ義ニシテ兼員ノ別種ヲシテ其事務ヲ
取扱ハシムルモノトス。○各所ノ國債支局ハ大藏卿ノ信任シ
タル代理人ヲシテ其事務ヲ取扱ハシメ而メ「ボルソン、オフ、コン
フ、サ、テ、ン、ス」ヲシテ之ヲ取ケシム此人員ノ内一半ハ谷地ノ商法又
ハ藏業會議所ヨリ之ヲ撰挙シ今一半ハ大藏卿ノ撰挙
スルモノトス。○此事務ハ此事業ノ目的ニ向テ大藏卿ヨリ
命任スル所ノ諸「クレヂット、エス、チ、ア、ブ、リ、シ、メ、ン、ト」即チ銀行ノ手ヲ經
テ之ヲ實際ニ施行スベシ

第十三條 政府ヨリ撰任セラレタル代理人ハ須カラリ割引又ハ
貸附ヲ別無ク凡ソ各人ノ一致承諾ヲ要スル諸事務ハ都テ
之ヲ了鮮處分スベシ。○何時ニテモ株式等ノ質物ヲ受取
ルハ其物品ノ市相場ヲ見合セ之レガ割引ノ高ヲ取極ム

ルハ此代理人任タルベシ。○但シ此代理人ハ須カラク最初ニ於
テ「ボルソン、オフ、コン、フ、サ、テ、ン、ス」ノ見込ヲ聴聞スベシ

第十四條 諸國債局ノ開業ハ政府ヨリ命任セラレタル代理人
并此事務ノ掛リ官員ヨリ官達公布ノ為メ定メラレタル新聞
紙等ヲ以テ之ヲ布告スベシ

第十五條 集リタル利子ノ金額ハ先ツ此事務取扱ノ雜費ヲ
引去リ引蒙リタル凡百ノ損失ヲ補償スルノ目途ニ向テ之ヲ
仕拂フベシ而メ其殘高ハ之ヲ政府ノ貸附用ニ充ツルベシ

第十六條 何時ニテモ國債局ノ永續ヲ以テ必要ナリトセザルノ
次第明確ノ證據之レ有ルニ於テハ(第三條)大藏卿ハ斷然之
ヲ閉チ隨テ之ヲ一般ニ通知スルノ手續ニ從事スベシ。○但シ國
債局ハ遲クトモ千八百七十四年十二月三十一日以後ハ貸附
ヲ停止スベシ

第十七條

國債局ノ諸事務ヲ全ク整了一掃セシ後尚ホ
返納スベキ金額之レ有ルニ於テハ之ヲ別口ニ計算シ且ツ特
別條例ヲ以テ其遣拂方法ヲ取極ムベシ

第十八條

大藏卿並高賣事務局長ハ現今發施シタル所ノ
條例ヲ公布ノ日ヨリシテ實地施行スルヲ委任セラル、モノナリ

「ゴドルロ」澳帝ノ離宮ニ於テ千八百七十三年十二月十三日

「フレシズシヨセフ」澳帝手記

「アレキス」

同高賣事務局長手記

「フーレスバーグ」澳國首相手記

「ベンハンス」同大藏卿手記